



学校だより

2026年7月9日
藤沢市立御所見中学校
校長 山田 大

笑顔はじけた3日間、京都・奈良「修学旅行」

～日常では味わえない学び、五感を研ぎ澄ませて～

6月21日（日）から23日（水）まで、3年生は2泊3日で修学旅行に行ってきました。行き先は定番の「京都・奈良」、天候は幸運にも、梅雨の晴れ間を引き当てて、御所見中が滞在した3日間だけは傘を差さずに行動できました。（前後は雨でした）



3年生は3日間を通して、とにかく元気で新幹線でもバスでも食事中も、常に笑いが絶えず、全力で楽しんでいる姿が印象的でした。大きな体調不良やトラブルもなく、ほぼ時間どおりにスムーズに日程を消化することができました。



例年に比べて、外国人観光客が少なく、昨年、一昨年と比べると半数ぐらいの印象で、東大寺や金閣寺、清水寺などの人気スポットものんびりと見学できました。これは初めて京都・奈良に行く3年生にとっては幸運なことです。例えば、昨年は「東大寺の柱の穴くぐり」を体験できた生徒はごく一部でしたが、今回は多くの生徒が「大仏様の鼻の穴と同じ大きさ」の柱の穴をくぐることができました。



宿泊するホテルは新しくキレイで最新の設備が整い、快適そのもの。2日間連泊でゆったり過ごすことができました。自由時間には部屋を歩き来してカードゲームや会話を楽しみ、就寝時間を過ぎて、なかなか眠れなかった部屋もあるようです。朝、夕の食事バラエティーに富んだおいしい料理で、大満足でした。

2日目の班別自主行動ではほとんどの人が初めての京都の名所・観光地を巡りました。3日目のクラス別コースを外して、清水寺、金閣寺、伏見稲荷など有名スポットに行く班が多くありました。8:30頃から17時近くまで、長い時間の移動・見学は戸惑うことも多く疲れたと思いますが、全班遅れることなく無事に戻ってこられました。夕食後に実行委員会の企画でグループ対抗のクイズ大会が行われました。金子先生と小林先生のジェスチャーゲームや秋元先生と田中先生の手押し相撲対決などもあり、大変盛り上がりしました。この日の夜は疲れて、早めに寝る生徒が多かったようです。

3日目はクラス別にバスで京都市内を巡りました。私は1組と一緒に金閣寺・龍安寺に行きましたが、ここでも観光客が少なく、池に映る黄金の金閣寺と枯山水の庭園をゆっくりと堪能しました。その後、嵐山に全クラスが集合して、クラス関係なく自由に渡月橋などを散策した後で昼食を食べました。

帰りの新幹線でも元気いっぱい、「まだ帰りたくない」「もっと旅行を続けたい」という生徒が多くいました。小田原や京都での乗車待ちが30分以上ありましたが、これだけの大人数で移動しているにも関わらず移動に関しては実にスムーズでノンストレスで快適でした。添乗員さんや先生の計画・誘導も素晴らしいのですが、なによりも生徒の皆さんがマナー良く協力的だったことが最大の要因だったと感心しました。



本物のすごみ、伝統芸能「能」を体感

私は今回で京都・奈良の修学旅行は9回目になります。しかし、「能」を見学したのは今回初めてでした。感想は一言で「感動」しました。知っていたら毎年必ず予定に入れた素晴らしいものでした。日本の伝統芸能である「能」についてわかりやすく紹介し、代表者が衣装や和楽器の体験させてもらい、最後に演目の一節を鑑賞しました。

進行を務めた河村純子さんのお話しも素晴らしく。最初は笑いが起こる和やかな雰囲気でしたが、最後は厳しい稽古で培われた、迫力ある本物の「能」のパフォーマンスに圧倒され、自然と引き込まれていきました。最後に、河村さんから「これから皆さんの人生は、自動ドアが開くような時代ではない、自分自身の力で扉を開いていくのです」というエールをいただき、生徒達の心のこもった拍手大喝采に包まれて終了となりました。



修学旅行のスマホ・費用・快適さ・食育 ～多くの学び経験がある一方で課題も～

楽しく充実していた修学旅行ですが、課題に感じることもあります。今年に限ったことではないのですが、まずはスマホの問題。今回もスマホは禁止でしたが、持ってきてしまった人がいました。持ち込みOKにした方が良いでしょうか？

次に費用の問題。各家庭が負担する修学旅行の経費は約7万円です。お小遣いは2万円以内でバスガイドさんいわく、今シーズン他の中学校と比較して最高額だそうです。

そして毎年気になる、食事の食べ残しの問題。今年は一人ひとりにお膳で提供されましたが、朝食をまったく食べず全て残している生徒もいました。

行き帰りの御所見中・小田原間をバスで移動したり、行きも帰りも大きな荷物を送ったり、とにかく快適なのですが、その分費用もかかっています。一生に一度しかない修学旅行なので楽しく快適に過ごしてほしいと思うのですが、「もったいない」と感じることも多くあります。生徒の皆さんも保護者の方も少し考えてみてはいかがでしょうか？



定



藤沢市教育文化センター 教育文化講演会 探究する心を育てるために ～身近な疑問が出発点に～

なぜ鳥たちは群れをつくるのでしょうか。インコはなぜ、人間の言葉をまねするのでしょうか。私たちが普段、何気なく見ているスズメやツバメやカラスなどの身近な鳥たちも、その生活を深く知れば知るほど、分からないことがいっぱい出てきます。

さて、探究することそのものを楽しむ心は、どのように育んでいけばよいのでしょうか。鳥の研究の第一人者である、日本野鳥の会会長・立教大学名誉教授の上田先生のお話から一緒に考えていきましょう。

〔講師〕 上田 恵介 氏

動物行動学・進化生態学・鳥類学を専門とし、環境問題の研究にも取り組んでいらっしゃる第一人者です。野鳥を知ることを通じて、自然全体を知ることの大切さ、守ることの重要性、そして自然の生態系の仕組みなどを広く伝えています。研究者としての豊富な経験から語られるお話は、やわらかくわかりやすい解説として、「NHK ラジオ子ども科学電話相談」や、テレビ番組「ダーウィンが来た」でもおなじみです。

と き 8月19日（水）14:00～16:00
（入場無料 手話通訳有）
ところ 湘南台文化センター 市民シアター
定 員 600人
申込方法 二次元コードもしくは電話
申込み 7月24日（金）～8月5日（水）
申込フォーム（二次元コード）より
電話 Tel (50) 8300
受付 平日 8:30～17:00

